

針ノ木雪渓（マヤクボカール）山スキー報告

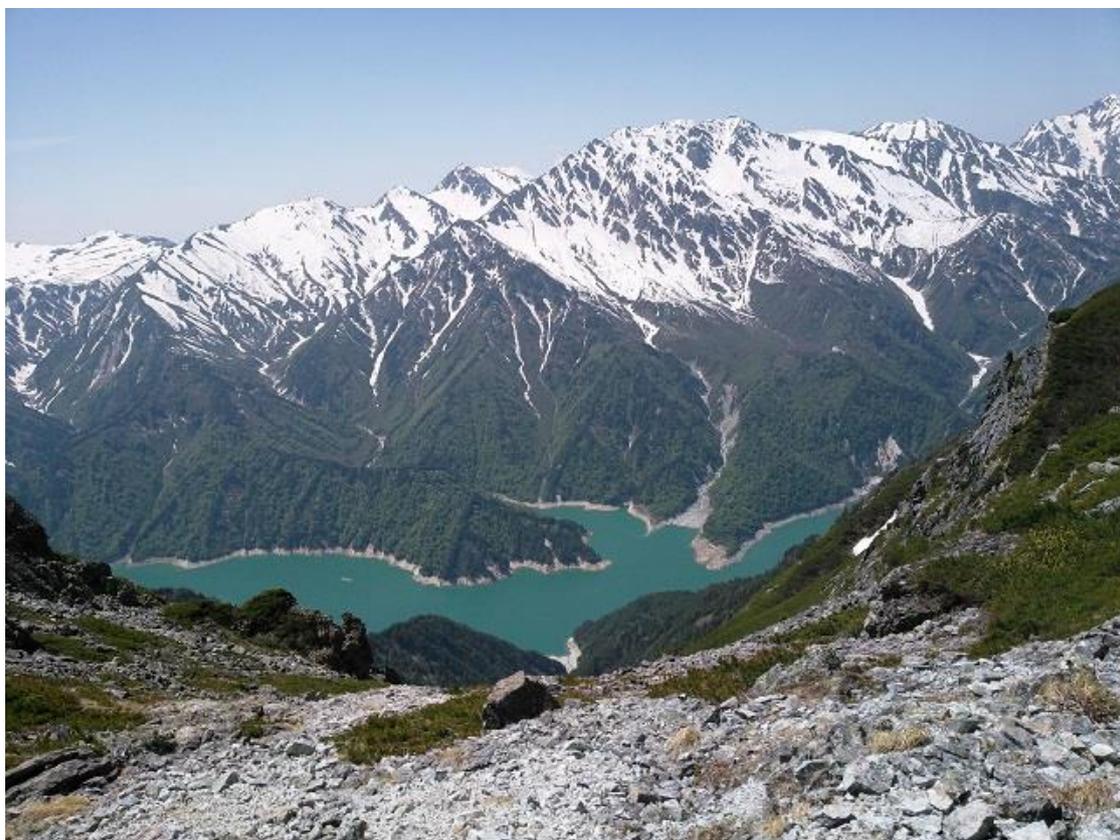
【山城】北アルプス・針ノ木岳

【日時と天候】2016年5月22日（日）晴れ

【メンバー】CL菊池・薄井・船橋山の会4名と合同（1名は登山）

【行程】

道の駅「安曇野松川」－扇沢7:00－作業道－大沢小屋－登山道（夏道）－1770m付近で針ノ木雪渓に降りる－マヤクボ沢出合（2250m）－マヤクボカール13:00針ノ木岳とスバリ岳との鞍部（2680m）－往路を滑走－1750m付近から登山道－大沢小屋－登山道（夏道）－15:40扇沢



・当初、前日の乗鞍で滑り納めとする予定であったが、船橋山の会の計画に誘われ針ノ木を滑り納めとした。針ノ木岳は今回で3年連続5月下旬に計画することとなったが、今期のような少雪シーズンに針ノ木は無理と考えていたが、前週のヤマレコの報告では上部の状況はまあまあであり、お誘いを受けることとした。



最近は体力的にも気力的にもマヤクボは諦めており、この 2 年間は針ノ木峠であったが、今回は久しぶりに 4 回目のマヤクボ挑戦であった。

・船山の若手男性はアプローチに軽登山靴を使用、重荷を難なく担ぎ上げていた。われわれは多少歩きにくくとも軽量化を選び、スキー靴のまま作業道を進んだ。(例年通りの残雪量でも作業道のシール登行は、日陰の固い雪質のトラバースなど、雪渓までは少し厄介なアプローチである。) 案の定極めて残雪が少なく、既に残雪の全くない沢の流れは大きな音を発している。例年と違う異様な感じの作業道(落石注意の)を進むが、暫くするとさすがに日陰のためか残雪の上を歩き、ガレ場を通過した。いつもは雪渓の快適なシール登行が始まる大沢小屋直前の広い河原に到達すると、ここはなんとか残雪が沢を埋め尽くしており、ツェルトが多数張られていた。その上部は堰堤がむき出しとなっておりしばらくは夏道を行かねばならない。反対側の左岸に赤布がありそこから大沢小屋直前の登山道に入った。大沢小屋まではスキー靴でも問題なく順調に到達でき休憩をとった。



・新緑の登山道を進みながら左側の沢を垣間見ると、残雪は全くなく激しい沢の流れが見えるだけである。どの辺から雪渓に降りることができるだろうかと焦る気持ちを抑えながら、先頭で進むと間もなく赤布があり、沢の方に降りていく道があった。少し覗いてみると、残雪が少しはあるが不安であった。安定した雪渓のところまでは夏道を進んだ方がよさそうであると考え、そのまま登山道を進むと、そこからかなりの高巻きとなり、残雪の残っている急な登りなどかなり苦勞する。踏み抜きそうな地点でバランスを崩し転倒してしまった。体力を消耗してしまい、先頭を譲り最後尾についていった。しばらく進み安定した雪渓に降りることができたが、前途が危ぶまれた。



を譲り最後尾についていった。しばらく進み安定した雪渓に降りることができたが、前途が危ぶまれた。

・気を取り直し、シール登行を始めた。初めはデブリの末端のため大きなウネリに快適とはいかない。しばらくして漸く快適なシール登高となった。若者と登山の O さんは順調に先行する。ここで焦ると体力・脚力の劣る小生は潰れてしまう。ゆっくりコツコツと一歩一歩進むのみである。前方のノドのあたりに何やら大きな黒いものが現れ、ゆっくり落下して止まった。クマか否か。近くに到達すると大きな落石であった。落ちたばかりの大きな落石がバウンドしながら、雪面を大きくえぐった跡が生々しい。スバリ岳からの落石が集まるところであり、数個の大きな落石と小さな落石が無数散らばっていた。その地点の通過はできるだけ、落石の進路を避けるように工夫した。



マヤクボ沢の出合にかなり遅れて到着した小生は、皆さんより少し上部で休憩しマヤクボの核心部を観察した。クレパスは小さく問題ないようである。上部から滑走してきたスキーヤーに聞いてみたがやはり問題ないとのことであった。アイゼンを装着し行動食を採って気合を入れて一足先に出発した。

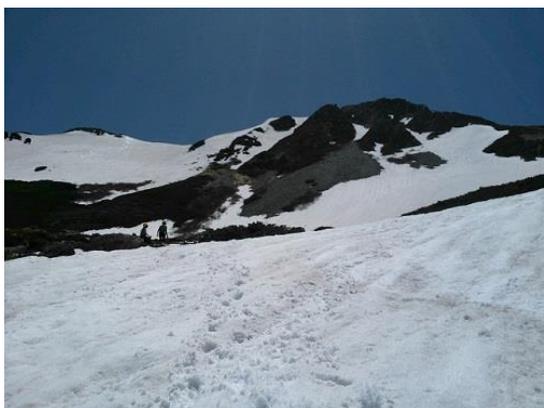


・初めはややトラバース気味に進むが、間もなく、左腿の付け根に違和感と固い感じが襲ってきた。無理をすると痙攣してしまいそうである。そのまま時間を稼ぎ、アクエリアスを飲んだり、筋肉を揉んだりして回復を待った。通過するメンバーに小生は無理できずこの地点で休んで待っている可能性もあるから、あとのメンバー遅くとも午後 2 時には下山（滑走）開始とするようアドバイスした。

夏道で体力を消耗し、また他のメンバーより休憩時間を少なくして出発したためかなど考えながら、しばらくすると、違和感などが消失、少しずつ動かしてみても大丈夫そうであり、ゆっくり行けるところまで行ってみることとした。



次第に急になっていくマヤクボの斜面、右に巻きながら少しでも楽なルートを進むが厳しく緊張するアイゼン登高である。標高差 200m ほどの急な部分を漸く終了し何とか傾斜の緩んだ台地に到達し休憩となった。何とか小生も他のメンバーの待つ休憩地点に到達できた。上部は下地がやや硬い部分もあったが、全行程概ね登りやすい雪質であった。



時間的にも厳しくなっており、全員でスバリ岳との鞍部まで 13:00 に到達、立山連峰と黒部湖のグレイトビューをゲットし、今回は頂上を踏まずここから下山（滑走）することとした。



・雪質は適度の緩んだ上質ザラメであるが、さすがマヤクボの急斜面、緊張しながら慎重に大回りのアルペンターンでスピードコントロールしながら、頻回に止まりながら高度を落とした。のどのあたりは核心部、横滑りで斜度を下げた。他のメンバーに安全滑走すべくポイントをアドバイスしながら下った。メンバーの一人が滑走を始めて間もなく急斜面滑走に慣れてないためかバランスを崩し転倒 50m ほど滑落した。優しい雪質ではあるが不意慣れのため急斜面に対する恐怖心で山側に体が傾きやすい。できるだけ山側には体重が掛かりすぎないように大声でアドバイスしながら全員安全地帯のマヤクボカールの下部に到達できた。そこからは快適な斜面、それぞれ思い思いのシュプールを描きながら出合まで滑走し休憩となった。



・雪渓の末端（1750m）まで標高差 500m の針ノ木大雪渓の大滑走である。滑りやすい雪質とは言え、落石や凹凸・ウネリなど変化に富んだ長丁場、時には小石地雷を踏む「ガリガリ」音に板を傷つける心配をしながら、面白おかしく、楽しく滑走終了地点まで到達した。登りで雪渓に降り立った地点より 150m ほど下方まで、左側にわずかに残った雪渓を滑走し、登山道（夏道）に戻った。

・大沢小屋を通過してすぐに作業道に戻らねばならないが、笹藪に隠れていたためその入り口を見逃してしまった。すぐに戻ればよかったが、一度経験に登山道を下ってみること



にした。新緑のブナ林、オオカメの木の白い花、ツツジなどは素晴らしく癒されたが、3~4回の沢の渡渉、スキー靴での下山は思ったよりきつく、予想以上に時間を要しへろへろになって扇沢駐車場に到着した。作業道経由で下山したメンバーは40~50分も早く到着していた。

大町温泉街の反対側・右側に入って上原（うわっぱら）の湯を利用したが、シニア料金250円のリーズナブル以上に疲れが吹っ飛んだ。